

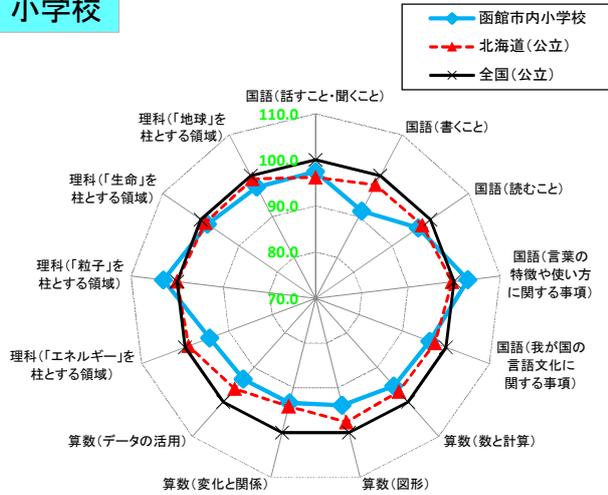
■函館市内の状況及び学力向上策（小学校数：39校、児童数：1400人）（中学校数：20校、生徒数：1298人）

【教科全体の状況】

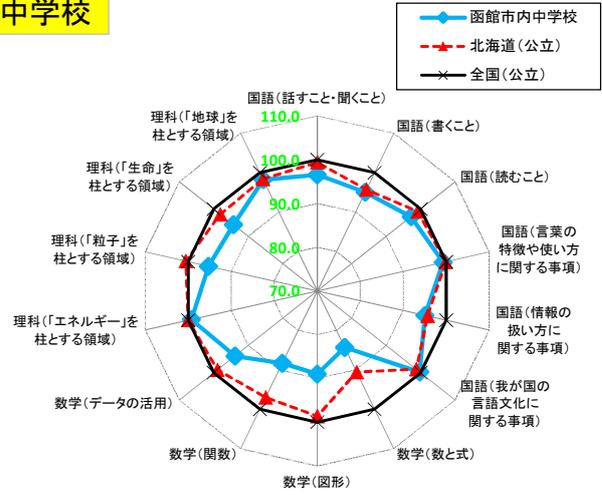
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	68
算数・数学	60	45
理科	63	48

小学校

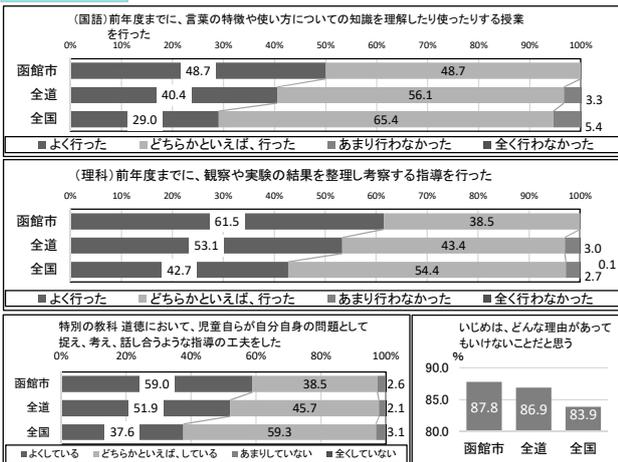


中学校

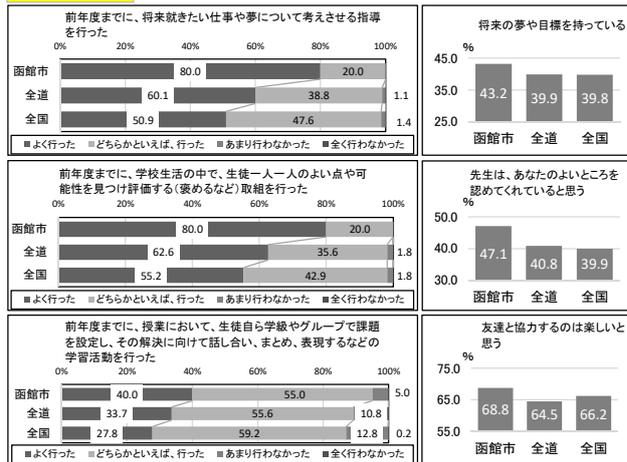


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

国語の指導として、前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業をよく行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導をよく行ったことにより、「『粒子』を柱とする領域」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしたことにより、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

**中学校**

前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をよく行ったことにより、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組をよく行ったことにより、先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動をよく行ったことにより、友達と協力するのは楽しいと思うと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【函館市の学力向上策】

- ◎ 学習用端末を活用した実践及び「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に係る取組の推進
- ◎ 多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力等を育み安心して可能性を発揮できる環境づくりの推進
- ◎ 将来の夢や目標に向かう力や自分で計画を立てて学習を進める力を身に付ける指導の推進

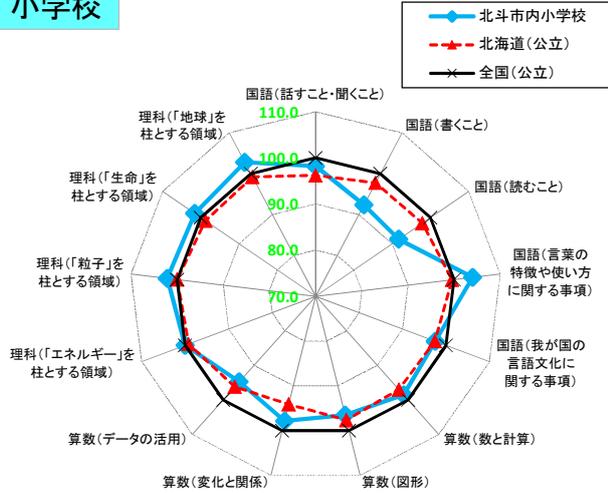
■北斗市内の状況及び学力向上策（小学校数:11校、児童数:354人）（中学校数:5校、生徒数:373人）

【教科全体の状況】

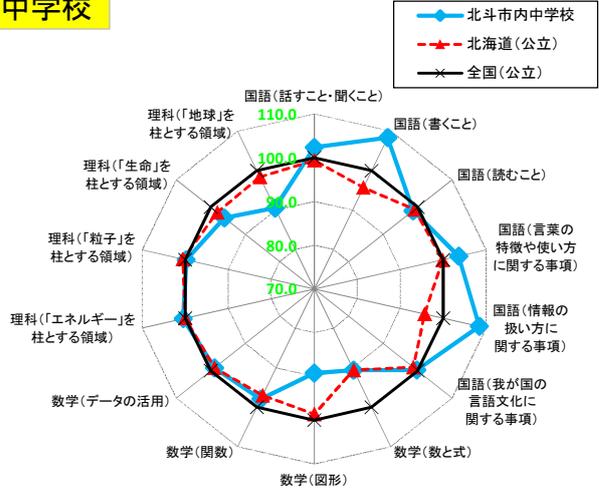
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	71
算数・数学	62	48
理科	64	47

小学校

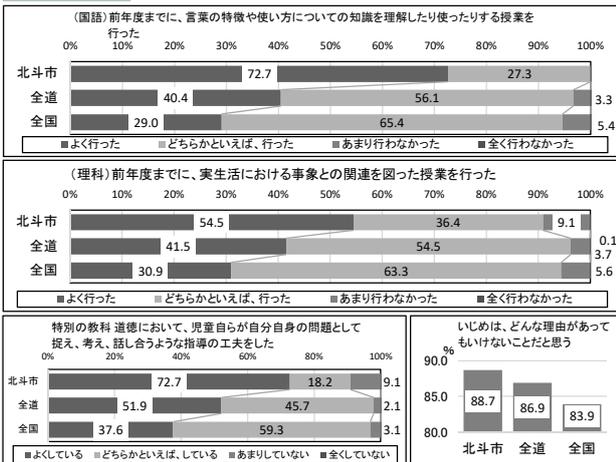


中学校

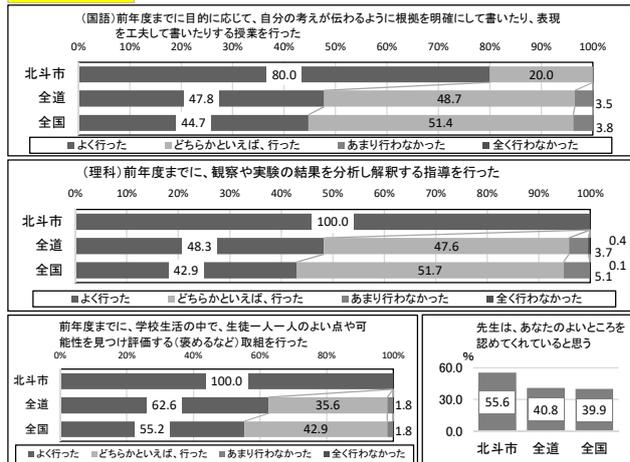


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

国語の指導として、前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業をよく行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業をよく行ったことにより、「『粒子』『生命』『地球』を柱とする領域」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしたことにより、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

**中学校**

国語の指導として、前年度までに目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業をよく行ったことにより、「書くこと」領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を分析し解釈する指導をよく行ったことにより、「『エネルギー』を柱とする領域」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行ったことにより、先生は、あなたのよいところを認めていると思うと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【北斗市の学力向上策】

- ◎ 1人1台端末を活用した学校間の接続や様々な人たちとのコミュニケーション活動の推進
- ◎ 土曜授業及びコミュニティ・スクール等の活用により、地域の特性等に基づいた特色ある学校づくりに係る取組の充実
- ◎ 小・中学校が連携した相互乗り入れ授業や小学校における教科担任制の推進

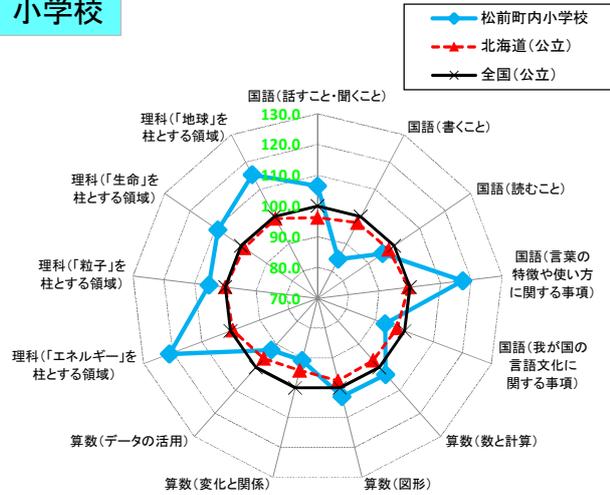
■松前町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:22人）（中学校数:1校、生徒数:19人）

【教科全体の状況】

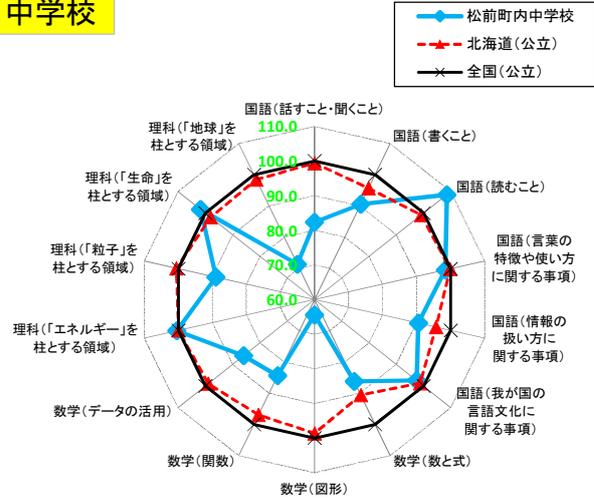
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	67
算数・数学	63	42
理科	71	45

小学校

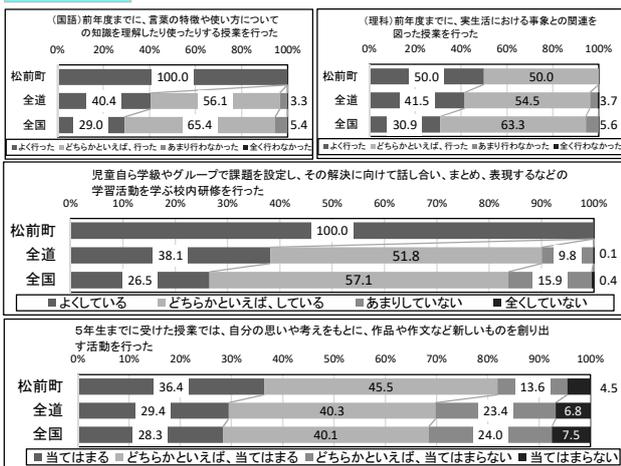


中学校

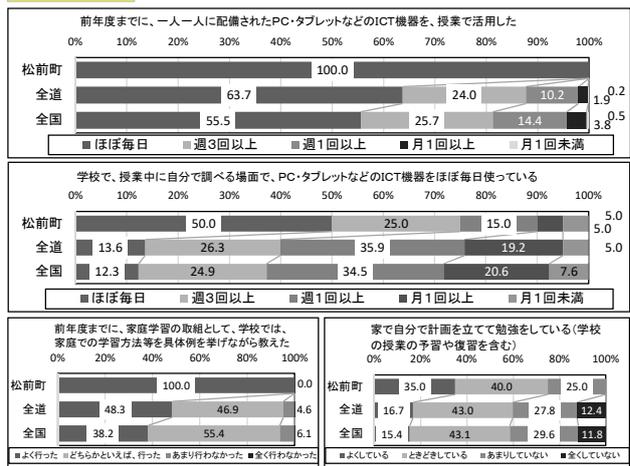


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

国語の指導として、前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業をよく行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業をよく行ったことにより、理科の全ての領域で全国平均正答率を上回ったと考えられる。

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行ったと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

**中学校**

前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で活用したことにより、学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使っていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしている（学校の授業の予習や復習を含む）と思うと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【松前町の学力向上策】

- ◎ 全小・中学校、地域住民及び保護者が一体となった学校運営と、小中9年間の一貫した教育活動の推進
- ◎ アクションプランに基づく「教師の授業力向上」と生活リズムの改善に向けた「松前っ子3リズム」の徹底
- ◎ ICT機器を活用したプログラミング学習とICT支援員による教職員への研修の充実

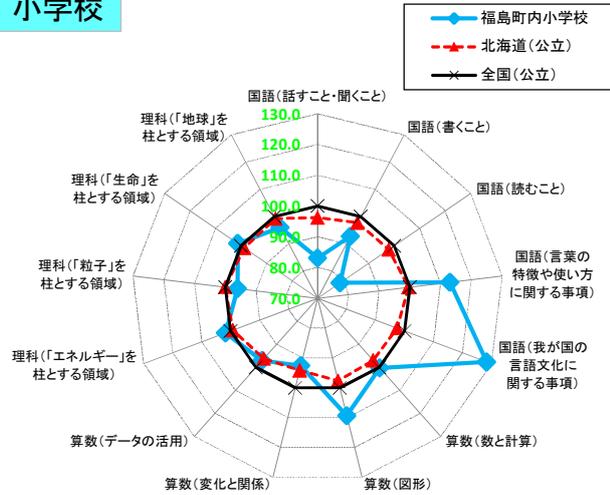
■福島町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:10人）（中学校数:1校、生徒数:12人）

【教科全体の状況】

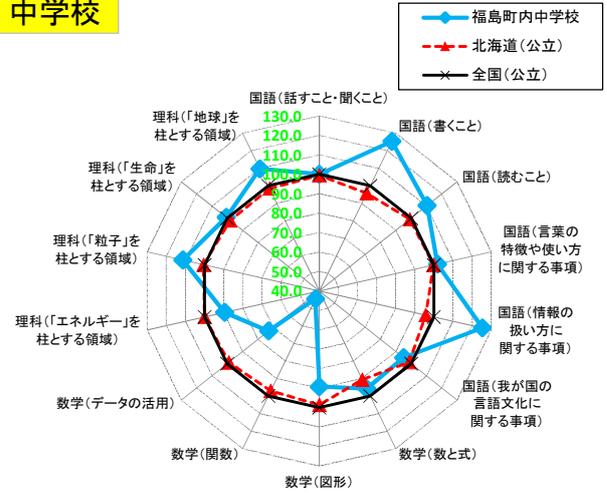
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	71
算数・数学	64	41
理科	62	51

小学校

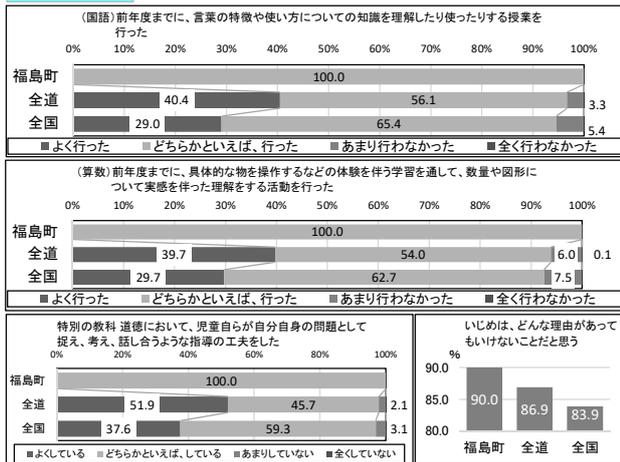


中学校

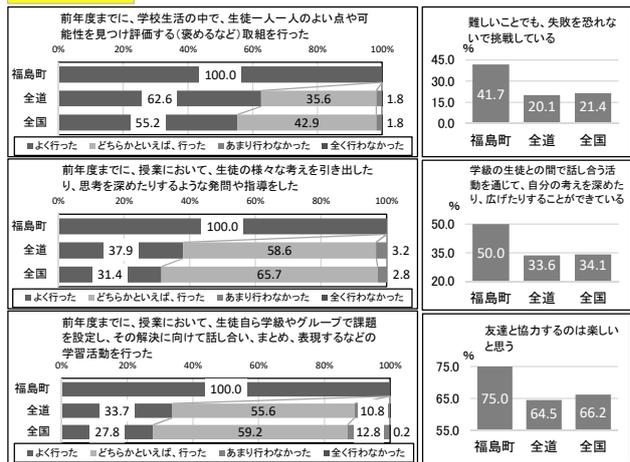


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の指導として、前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の指導として、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感をする活動を行ったことにより、「数と計算」「図形」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしたことにより、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組をよく行ったことにより、難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

前年度までに、授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動をよく行ったことにより、友達と協力するのは楽しいと思うと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【福島町の学力向上策】

- ◎ GIGAスクールサポーターを各学校におけるICT教育のコーディネーターとして活用
- ◎ 1人1台端末の家庭への持ち帰り、e-ライブラリや遠隔授業による「学びを止めない」教育活動の推進
- ◎ 小学生から高校生までを対象とした学習支援やキャリア教育、プログラミング教室を融合させた事業の実施

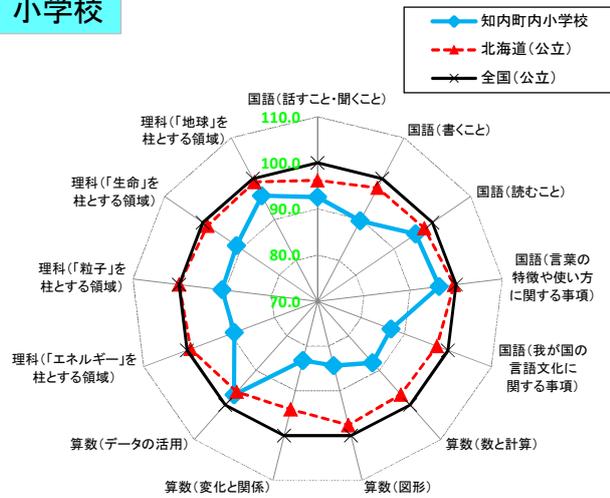
■知内町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:31人）（中学校数:1校、生徒数:25人）

【教科全体の状況】

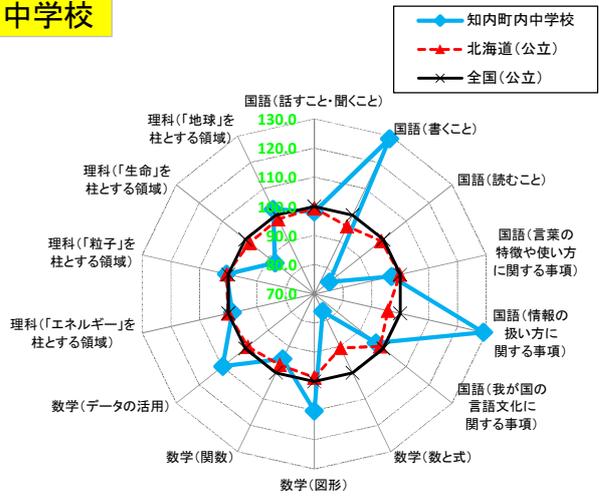
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	66
算数・数学	56	48
理科	58	48

小学校

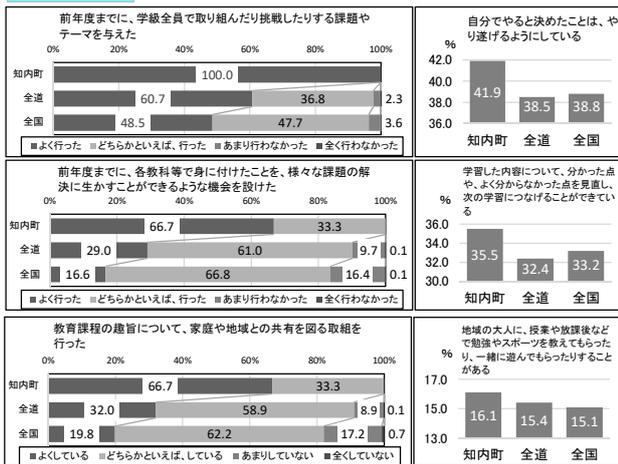


中学校

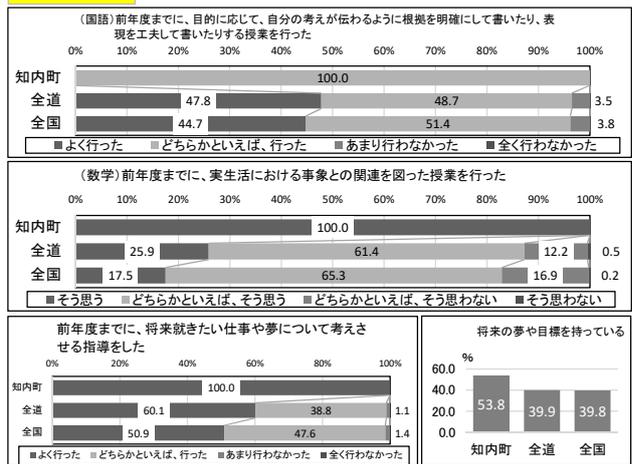


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたことにより、自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。  
 前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。  
 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組をよく行ったことにより、地域の人々に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがあると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、「書くこと」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。  
 数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業をよく行ったことにより、「図形」「データの活用」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。  
 前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたことにより、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【知内町の学力向上策】

- ◎ 乗り入れ授業や交流授業等の小中一貫教育サポート事業に係る取組の推進
- ◎ 小・中学生に対して英語検定をはじめとする英語資格及び検定試験への助成等による英語教育の充実
- ◎ ICT支援員による教員研修の充実と、デジタル教科書の活用や遠隔授業の実施等によるICT教育の促進

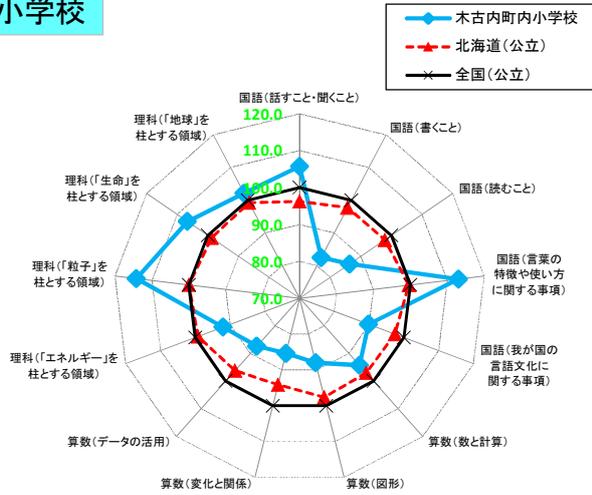
■木古内町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:20人）（中学校数:1校、生徒数:21人）

【教科全体の状況】

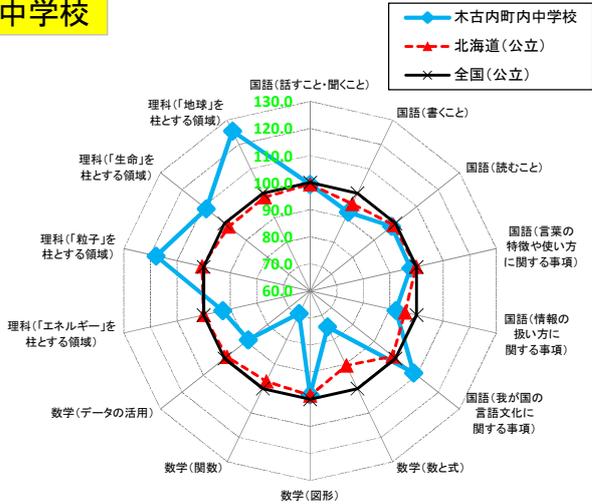
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	69
算数・数学	58	42
理科	66	54

小学校

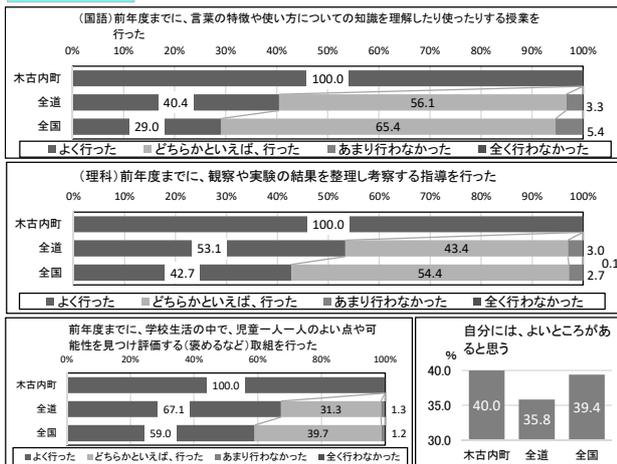


中学校

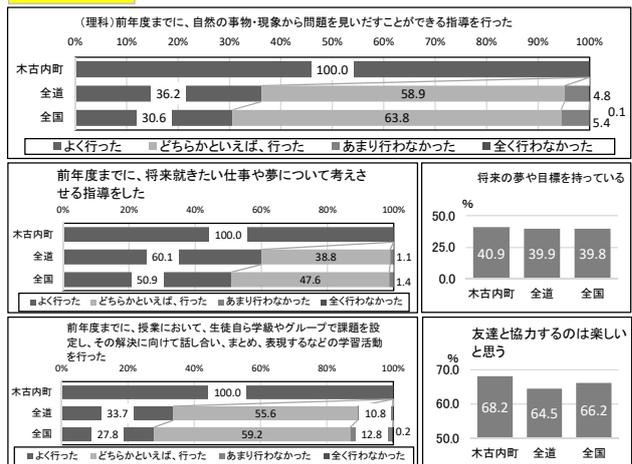


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の指導として、前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業をよく行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導をよく行ったことにより、「『粒子』『生命』『地球』を柱とする領域」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組をよく行ったことにより、自分には、よいところがあると思うと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

理科の指導として、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導をよく行ったことにより、「『粒子』『生命』『地球』を柱とする領域」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたことにより、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現などの学習活動をよく行ったことにより、友達と協力するのは楽しいと思うと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【木古内町の学力向上策】

- ◎ 小中9年間を見通した教育課程のつながりと小中連携の強化による教育の質の向上
- ◎ 学校・家庭・地域の連携による情報モラルや情報活用能力を育む教育の推進
- ◎ 9年間の学びの系統性や連続性を踏まえた授業改善に係る取組の推進と、各種研修会等を通じた教師力の向上

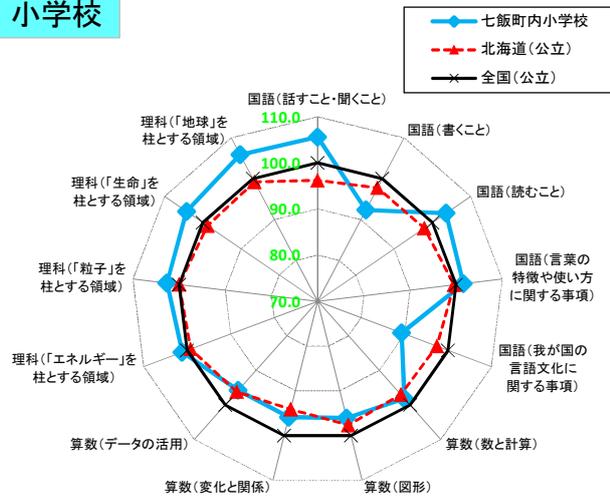
■七飯町内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:191人）（中学校数:4校、生徒数:211人）

【教科全体の状況】

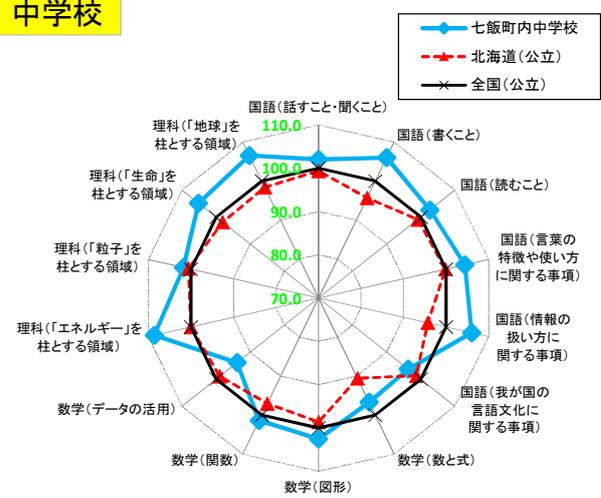
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	71
算数・数学	62	50
理科	66	52

小学校

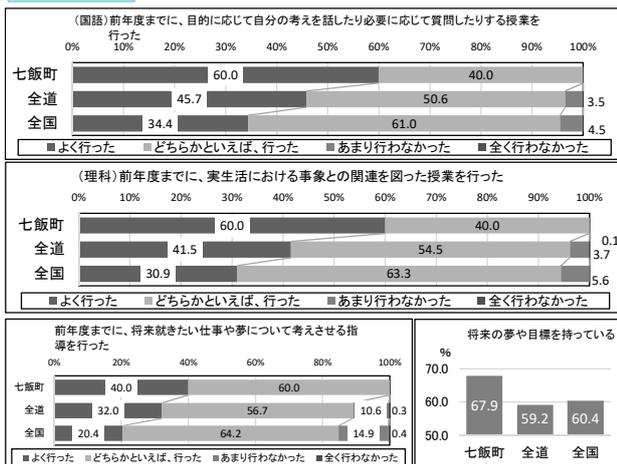


中学校

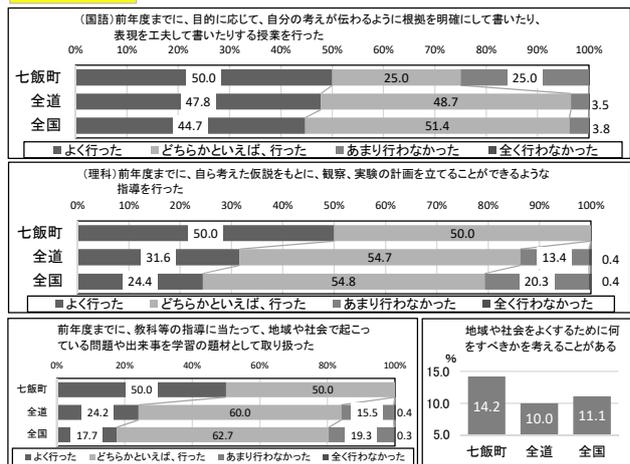


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の指導として、前年度までに、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業をよく行ったことにより、「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業をよく行ったことにより、理科の全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をよく行ったことにより、将来の夢や目標を持っていると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業をよく行ったことにより、「書くこと」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の指導として、前年度までに、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導をよく行ったことにより、理科の全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

前年度までに、教科等の指導に当たって、地域や社会で起きている問題や出来事を学習の題材としてよく取り扱ったことにより、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【七飯町の学力向上策】

- ◎ 中学校区単位におけるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取組の推進
- ◎ 9年間の学びの連続性の確保と各学校における重点教育目標の達成に向けた特色ある教育課程の編成・実施
- ◎ 学習支援員の配置による児童生徒一人一人の習熟度に応じたきめ細かな学習指導の促進

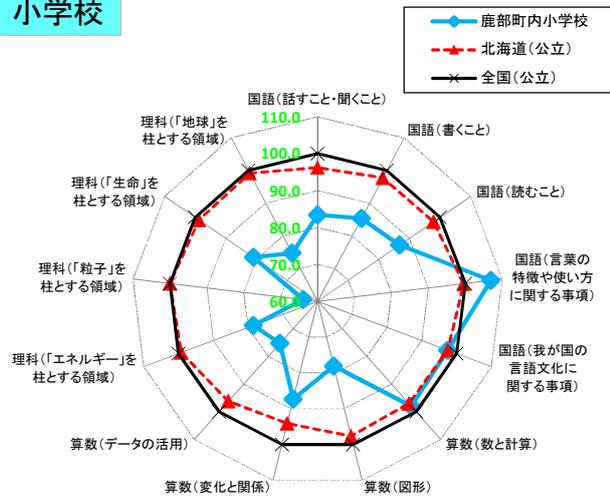
■鹿部町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:29人）（中学校数:1校、生徒数:29人）

【教科全体の状況】

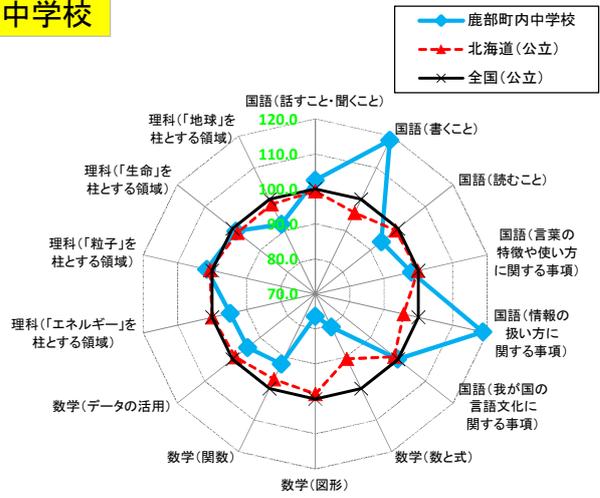
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	68
算数・数学	55	44
理科	48	48

小学校

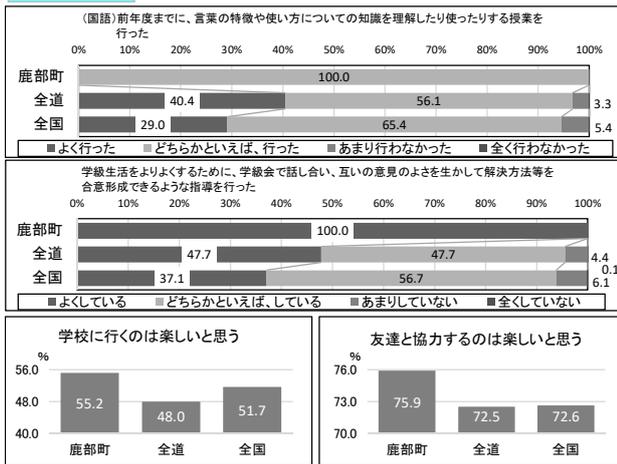


中学校

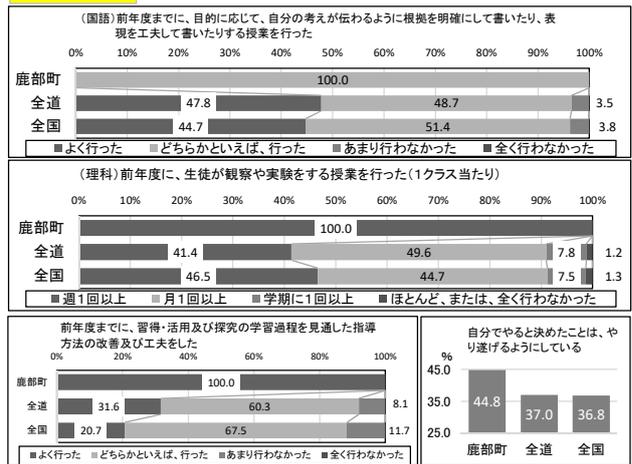


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の指導として、前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導をよく行ったことにより、学校に行くのは楽しいと思うや、友達と協力するのは楽しいと思うと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、「書くこと」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の指導として、前年度に、生徒が観察や実験をする授業を1クラス当たり週1回以上行ったことにより、「『粒子』を柱とする領域」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をよく行ったことにより、自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【鹿部町の学力向上策】

- ◎ 電子黒板や実物投影機、教師用デジタル教科書の整備による「わかる・できる」が実感できる授業づくりの推進
- ◎ オンラインによる双方向型授業や学習支援サービスを活用した家庭学習等、学びの保障の充実
- ◎ 幼小中合同コミュニティ・スクールにおける目指す子ども像の共有化と将来的な幼小中一貫教育に係る検討の推進

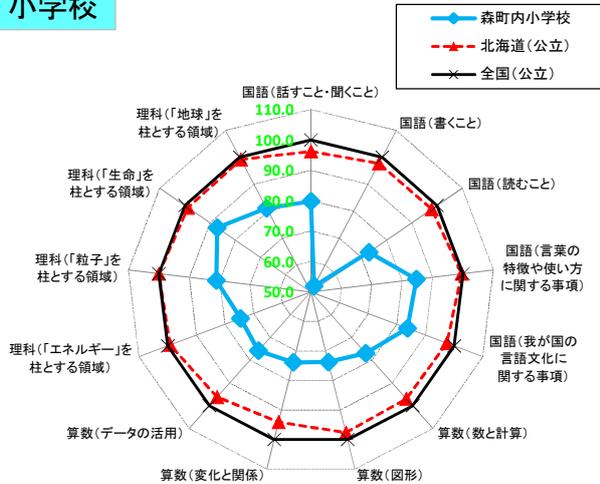
■森町内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:89人）（中学校数:2校、生徒数:94人）

【教科全体の状況】

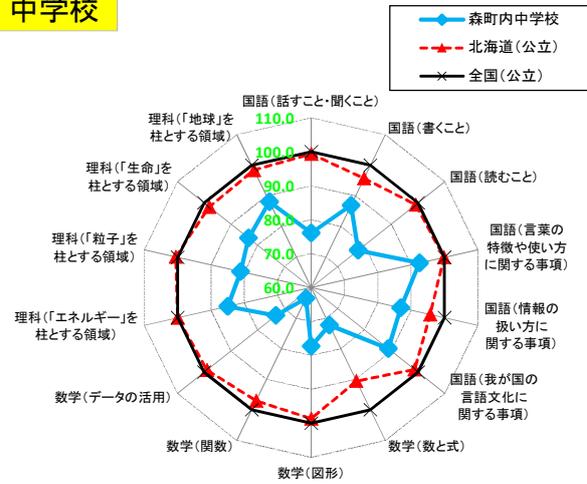
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	51	60
算数・数学	48	37
理科	52	41

小学校

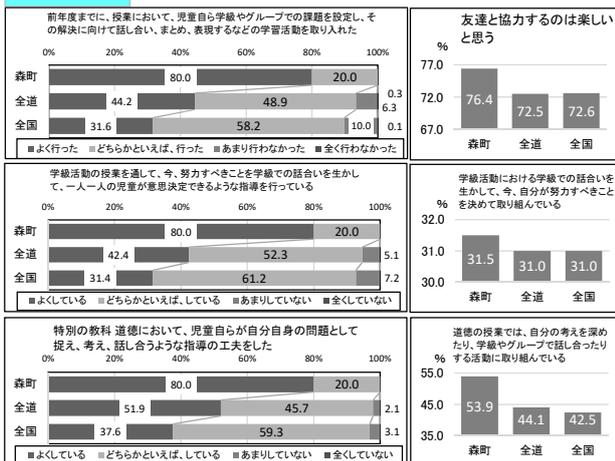


中学校

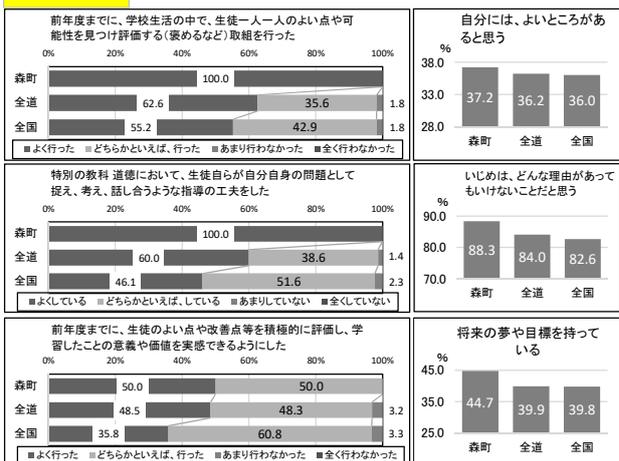


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動をよく取り入れたことにより、友達と協力するのは楽しいと思うと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導をよく行っていることにより、学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をよくしたことにより、道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

**中学校**

前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組をよく行ったことにより、自分には、よいところがあると思うと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

特別の教科 道徳において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしたことにより、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

前年度までに、生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【森町の学力向上策】

- ◎ 算数・数学の授業改善を軸とした学力向上と学習・生活規律の確立を両輪とした森町小中一貫教育の推進
- ◎ 小中一貫した教科等横断的な学習及び森町の「ひと・もの・こと」を生かしたふるさと学習の展開
- ◎ オンライン授業の環境整備や教職員研修の充実によるICTを活用した子どもたちの学びの保障の促進

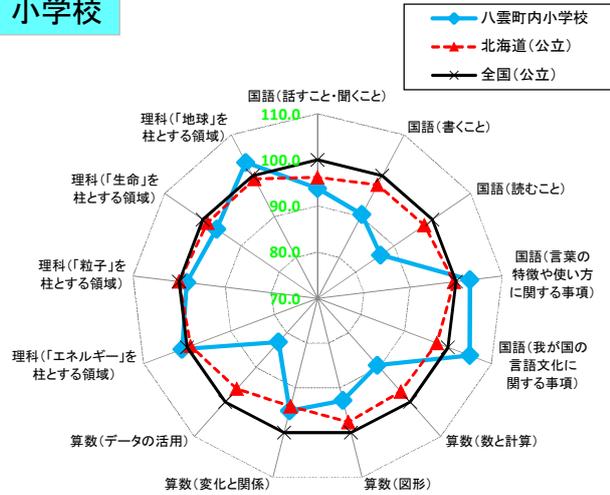
■八雲町内の状況及び学力向上策（小学校数：7校、児童数：99人）（中学校数：4校、生徒数：78人）

【教科全体の状況】

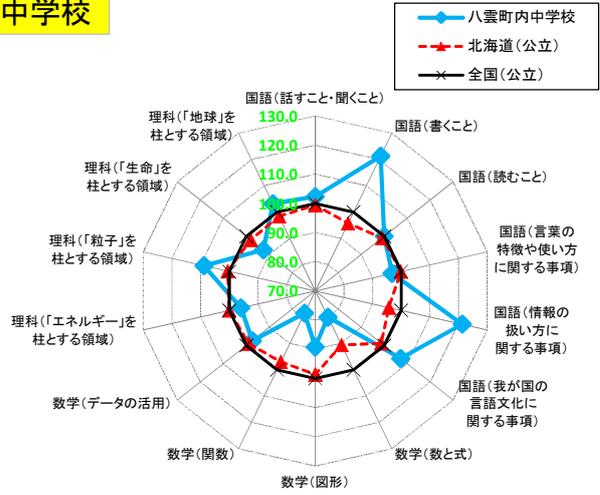
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	70
算数・数学	57	44
理科	62	49

小学校

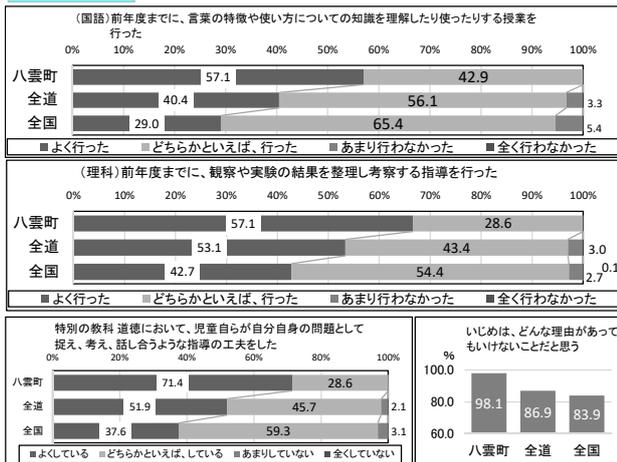


中学校

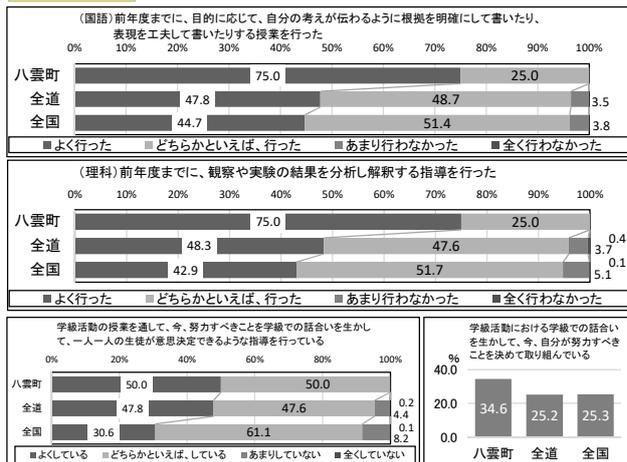


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の指導として、前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業をよく行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導をよく行ったことにより、「『エネルギー』『地球』を柱とする領域」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

特別の教科道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をよくしたことにより、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業をよく行ったことにより、「書くこと」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を分析し解釈する指導をよく行ったことにより、「『粒子』『地球』を柱とする領域」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導をよく行ったことにより、学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【八雲町の学力向上策】

- ◎ AI教材を1人1台端末へ搭載することによる個々の学習状況に応じた家庭学習の促進
- ◎ 1人1台端末を活用した不登校児童生徒への学習支援と学校復帰への意欲の向上に向けた取組の充実
- ◎ 汎用的読解力に視点を当てた学力向上のための授業改善のポイント「八雲スタイル」の全町的な実践

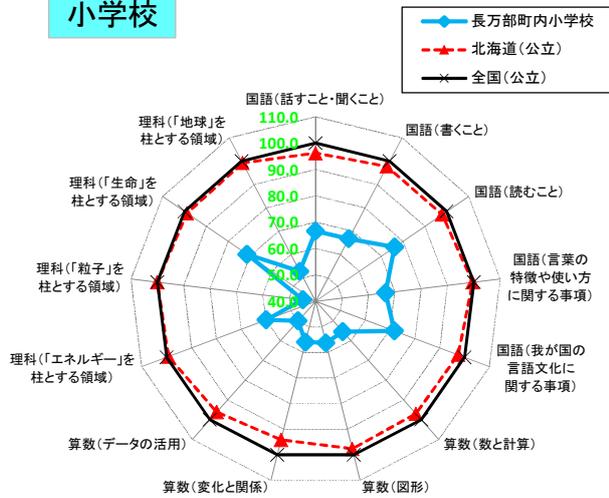
■長万部町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:34人）（中学校数:1校、生徒数:29人）

【教科全体の状況】

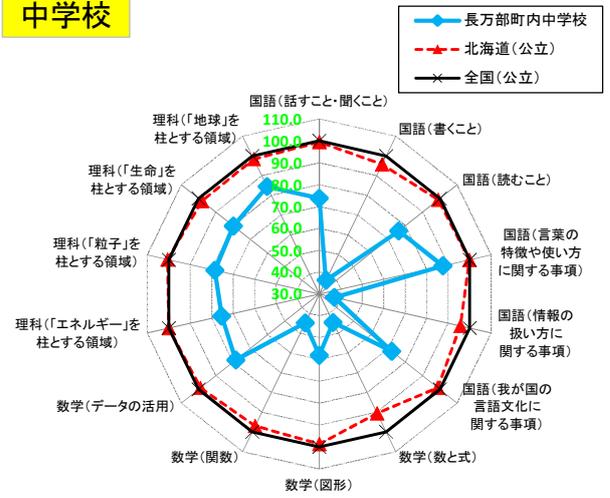
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	46	55
算数・数学	35	28
理科	37	40

小学校

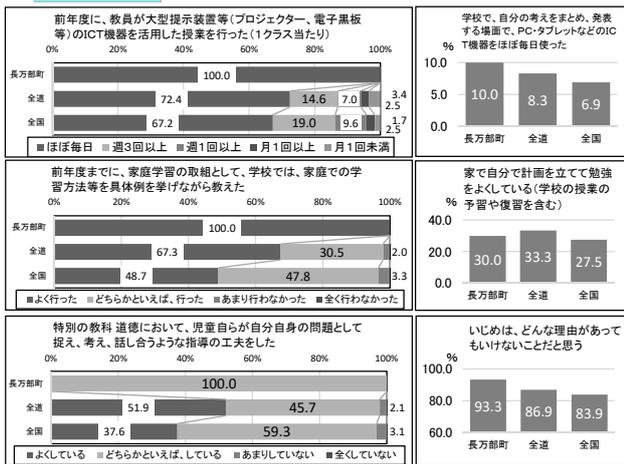


中学校

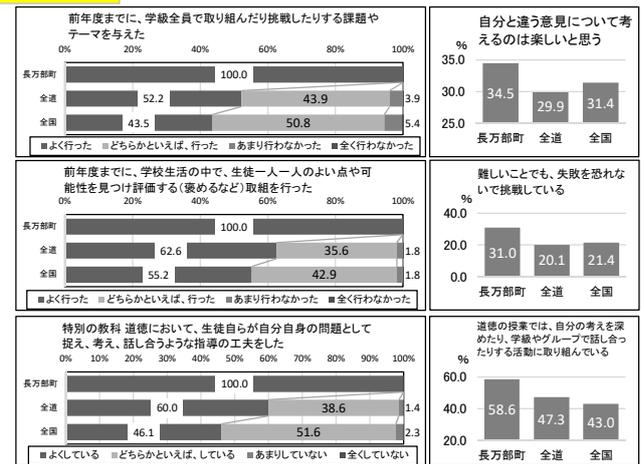


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりほぼ毎日行ったことにより、学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使ったと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。  
 前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をよくしている(学校の授業の予習や復習を含む)と回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。  
 特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしたことにより、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマをよく与えたことにより、自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。  
 前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組をよく行ったことにより、難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。  
 特別の教科 道徳において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしたことにより、道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【長万部町の学力向上策】

- ◎ 教職員の情報活用能力の育成及びICTを活用した教育活動の推進
- ◎ 幼児及び児童の交流や教員間における意見交換の機会の確保による幼保小連携の促進
- ◎ 長万部町教育連携会議における課題の整理及び対策の検討による小中高が連携した教育活動の充実